

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜わり厚くお礼申し上げます。

2026年3月期第3四半期決算短信、プレスリリースなど、当社の近況をご報告させていただきます。
株主の皆様には今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

① 2026年3月期第3四半期 業績ご報告

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、一部に弱い動きが見られますが、個人消費の持ち直しなどもあり緩やかに回復しています。一方で、米国の通商政策が与える景気への影響や、高止まりする物価が消費者心理に及ぼす懸念など、景気を下押しするリスクが依然として存在しており、先行きの不透明な状況が続いております。

このような経済環境のもと、当社グループは、モノづくりの原点である「仁丹」から発展した「球体技術」及び「素材研究」を事業基盤とし、社会課題に対応した製品・サービスの開発・提供、シームレスカプセル受託事業、機能性原料の販売に取り組んでおります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高9,704百万円（前年同四半期比1.1%増）、営業利益453百万円（前年同四半期比6.6%減）、経常利益500百万円（前年同四半期比4.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益363百万円（前年同四半期比3.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

① コンシューマー事業

当セグメントでは、国内市場において、2025年4月発売の「タンサ脂肪酸」をはじめとする「腸テク」シリーズ3品の販売促進に注力し、ブランド認知の拡大を図りました。宣伝資源の集中により主力製品「ビフィーナ」の新規獲得は伸び悩みましたが、堅調なインバウンド需要が売上を下支えしました。海外市場でも、重点エリアのアジア地域において香港で先行発売した新製品

が売上に寄与し、当セグメントの売上高は前年同期比で概ね横ばいとなりました。

利益につきましては、広告宣伝費等の先行投資の影響により累計では損失となりましたが、当第3四半期連結会計期間においては黒字化を達成しており、引き続き収益性の改善に努めてまいります。

このような状況のもと、売上高は、3,553百万円（前年同四半期比0.9%減）、セグメント損失は、126百万円（前年同四半期は、セグメント損失79百万円）となりました。

② ソリューション事業

当セグメントでは、機能性原料販売において既存顧客からの受注に変動があり、前年同期比で受注量がやや減少いたしました。一方、シームレスカプセル受託事業においては、ジェネリック医薬品である高脂血症用製剤（一般名：オメガ-3脂肪酸エチル）及び可食分野におけるフレーバーカプセル受託販売が引き続き好調となっております。

このような状況のもと、売上高は、6,145百万円（前年同四半期比2.3%増）、セグメント利益は、585百万円（前年同四半期比4.7%増）となりました。

③ その他

当セグメントにおきましては、売上高は、5百万円（前年同四半期比2.5%減）、セグメント損失は、5百万円（前年同四半期は、セグメント利益5百万円）となりました。

（百万円未満切捨て）

2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	9,704	1.1	453	△6.6	500	△4.7	363	3.6
2025年3月期第3四半期	9,596	2.5	485	△48.7	525	△46.8	350	△52.3

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 759百万円（89.8%） 2025年3月期第3四半期 400百万円（△49.6%）

2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
2026年3月期予想	12,800	0.3	900	11.9	950	9.1	720	31.6	176.26
2025年3月期実績	12,766	2.9	804	12.3	870	6.7	547	△21.5	133.78

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

② 次世代ヘルスケアの創出拠点「Jintan中之島ラボ」を開設

2026年1月13日、当社は大阪・中之島の未来医療国際拠点「Nakanoshima Qross(中之島クロス)」内に、新たな研究開発拠点「Jintan中之島ラボ」を開設いたしました。

本拠点の開設は、当社事業の持続的成長に不可欠な「エビデンス(科学的根拠)」のさらなる強化を目的とした、研究開発機能への抜本的な戦略投資です。130年以上にわたり培ってきた「素材研究」の知見と、当社独自の「シームレスカプセル技術」を融合し、健康寿命の延伸に寄与する独自の価値創造モデルを一層強固なものへと進化させてまいります。

本ビジョン実現のため、これまで分散していた研究機能を本拠点に集約。ヒト由来サンプル(糞便等)を用いた研究についても自社内で完結できる体制を整備いたしました。これにより、主力ブランド「ビフィーナ」や「腸テク」シリーズの根幹を成す「腸内環境研究」と、機能性原料の探索を担う「素材研究」がより緊密に融合。エビデンス構築の精度とスピードを飛躍的に高め、競争優位

性の高い製品開発を加速してまいります。

さらに、本拠点が位置する「Nakanoshima Qross」は、再生医療をはじめとする未来医療の産業化を推進するエコシステムの中核拠点です。当社はその特性を最大限に活かし、スタートアップや医療機関との連携によるオープンイノベーションを推進。業界横断的な共創を通じて、自社単独では実現し得ない革新的なヘルスケアソリューションの創出に挑戦してまいります。

科学的根拠に裏打ちされた確かな価値を世界へ届けることで、持続的な企業価値の向上と社会への貢献を実現してまいります。



③ 大阪大学蛋白質研究所とカシス由来成分の「動体視力」改善作用に関する特許を共同出願



森下仁丹



国立大学法人大阪大学の蛋白質研究所(以下「大阪大学蛋白質研究所」)との共同研究により、当社が販売する機能性原料「カシスエキス(カシスアントシアニンを含む抽出物)」に、動体視力に関わる重要な要素である「コントラスト感度」を改善する作用があることを、マウスを用いた試験で明らかにしました。本研究結果について、大阪大学蛋白質研究所と共同で特許を出願しており、2025年11月12日に公開されております。また、国際的な科学誌『Neuroscience』にも論文が掲載されました。

「コントラスト感度」とは、わずかな明暗の差を見分ける視覚能力のことです。本研究では、カシス特有のアントシアニン(D3R)

の摂取がこの感度の改善に強く寄与

している可能性が示唆されました。これにより、スポーツでのパフォーマンス向上や、雨天・夜間の運転における安全性の確保など、日常生活の様々なシーンでの応用が期待されます。

当社は、今後もカシスエキスの機能性に関するエビデンスを強化し、食品・サプリメントメーカー等への原料ビジネス展開と、自社製品の開発及び販売を一層加速させてまいります。また、将来的にはヒトでの臨床試験も視野に入れ、機能性表示食品の開発など、さらなる応用を目指して研究開発を継続します。

森下仁丹のサステナビリティ



森下仁丹グループ環境方針を策定

当社は、2025年11月1日付で「森下仁丹グループ環境方針」を策定いたしました。気候変動や資源枯渇といった地球規模の課題に対し、環境保全を経営の重要課題と位置づけ、持続可能な社会の実現に貢献します。本方針は、先に公表した人権方針とともに経営基盤の強化を図り、中長期的な企業価値向上を目指すための重要な指針となります。

具体的には、脱炭素社会の実現に向けたCO₂排出量の削減、

製品ライフサイクル全体を通じた資源の効率的な活用、そして汚染予防と生物多様性の保全を重点事項として推進してまいります。今後は具体的な目標設定と改善を重ね、透明性の高い情報開示を行ってまいります。株主の皆様におかれましては、当社の持続的な成長に向けた取り組みに、引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。